



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2018年 第1号 (4月)

ニュースレター

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 栗原英見 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】

秋季学術大会関連のご案内 認定資格申請のお知らせ 理事長選挙中間報告

AAP-JACP/JSP 大会のご案内 各賞・助成等の選考結果と募集 「若手研究者の集い」開催報告

国際交流活動の発展に向けて



国際交流委員会委員長
古市保志

国際交流委員会では、平成29年度に以下の3つの大きな活動を行いました。①国際交流用ロゴの制定：現行ロゴをベースにJSPの文字を前面に押し出した国際交流用ロゴを制定し、国際交流の場での使用を開始しました。②JSPiaの設立：日本への留学経験のある先生方、特にアジアの先生方への情報提供の場、JSP/APSP大会時のリユニオンを目的として設立されました。国際交流の発展、国際貢献の拡大のためにJSPia member 候補者の紹介をお願いします。③京都大会での国際シンポジウムの開催：韓国、中国、アジア・パシフィック、アメリカ、ヨーロッパの歯周病学会の代表者のご参加の下、今後の国際交流に向けての意見交換を行いました。各学会で、今後、国際交流活動として若手支援を充実させてゆく方向性が確認されました。

今年度もいくつかの共催大会・joint session・joint seminarが予定されています。①6月20～24日にオランダ・アムステルダムで開催されるEUROPERIO9では、20日にEFP (European Federation of Perio-

dontology) とJSPとでJoint Sessionが開催され、両団体からそれぞれ2名の演者の講演が行われます。②10月5～7日にインドで開催される第43回Indian Society of Periodontology (ISP) 年次大会のプログラムとしてISPとJSPとでJoint Scientific Seminarが予定され、JSPから2名の講師を派遣予定です。③10月27～30日には、カナダ・バンクーバーにて第104回アメリカ歯周病学会 (AAP)、カナダ歯周病学会、日本臨床歯周病学会 (JACP) およびJSPとで共催大会が開催されます。これは、2000年以降、JSPがAAPと2～3年ごとに共催している大会であり、過去の大会同様、JACP/JSPポスターセッションも開催され、基礎研究、臨床研究、症例発表、歯科衛生士のそれぞれの部門における優秀なポスターにつきましては表彰を行います。大阪の秋季歯周病学会、AAPバンクーバー大会、そして京都での歯科保存学会が連続して行われるタイトな日程となっていますが、若手研究者(無給)には、若手支援事業も実施予定ですので、会員の皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。④9月のフィリピン歯周病学会の25周年大会に1名の講師を派遣予定です。⑤春季大会では国際セッションの開催、秋季大会では中国牙周病学会の代表者講演が予定されています。

このように、JSP会員の日頃の活動が国際的にも評価され、世界各国・地域での歯周病学および歯周治療学の発展に寄与することが期待されています。会員の皆様の国際交流活動へのご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会開催のご案内

このたび、第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会を平成 30 年（2018 年）10 月 26 日（金）、27 日（土）の 2 日間にわたり大阪市のリーガロイヤルホテル大阪で開催させていただきます。

第 61 回日本歯周病学会秋季学術大会では「高齢者の健康寿命をサポートする歯周病予防の進展と展望～歯周病撲滅のための第一歩～」をテーマに、歯周病予防および最近注目のテーマであるティッシュエンジニアリングによる再生治療など、さまざまな話題についての議論を展開したいと考えております。特に、日本歯周病学会は昨年 12 月の設立 60 周年記念大会で「京都宣言」を発表いたしました。この秋季学術大会はそれから約 1 年経ち、検証の場としても活発なディスカッションが期待されております。

本大会では、学会主導型シンポジウムとして秋季大会時に行われております「若手研究者の集い」の拡大版として、留学経験のある若手の研究者の先生方に「歯周病予防」をテーマに留学時の経験談など幅広く語っていただき、大学院生や若手の先生方のモチベーションを喚起する場にしたいと考えております。また 2 日目の午後のシンポジウムに「歯周病治療を中心とした医業経営」をテーマに、大学外で従事されている先生方にも興味をもっていただける企画を組んでおります。歯科衛生士教育講演では、大阪歯科大学医療保健学部の糸田昌隆教授に、ここ最近の医科歯科連携を念頭に超高齢社会における口腔ケアについて講演いただき、歯科衛生士の活躍の場をさらに広げるきっかけにしたいと考えております。

私ども大阪歯科大学歯周病学講座が担当いたしますのは、2 代目教授の故 今井久夫先生が平成 11 年 4 月に第 42 回春季学術大会を担当させていただいて以来となります。日本歯周病学会は設立 60 周年を迎えましたが、本講座も創設 50 周年を迎え、初めての学会を担当させていただきますことを大変光栄に存じております。

大阪開催は 12 年ぶりとなり、来年の G20 首脳会議の開催や万博招致を控え、海外からの観光客も増え活気づいております。大会が開催されます 10 月下旬は 1 年を通じて最も気候のいい季節となり、大阪市内はもとより少し足を延ばせば京都や奈良など紅葉の名所がたくさんあり、全国からあらゆる食材が集まる「天下

の台所」食いだおれの街として、学会の夜も十分に楽しんでいただけるものと思っております。

全国から、多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。上げます。

第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会 大会長
大阪歯科大学歯周病学講座
梅田 誠

1. 会期 平成 30 年 10 月 25 日（木）、26 日（金）、27 日（土）
2. 会場 リーガロイヤルホテル大阪
大阪市北区中之島 5-3-68
3. 担当 大阪歯科大学歯周病学講座
大会長：梅田 誠
プログラム委員長：栗原英見
準備委員長：田口洋一郎
4. テーマ
「高齢者の健康寿命をサポートする歯周病予防の進展と展望～歯周病撲滅のための第一歩～」

5. プログラム概要

10 月 25 日（木）リーガロイヤルホテル

認定医筆記試験、各種委員会、理事会、写真撮影、理事懇親会

10 月 26 日（金）リーガロイヤルホテル

総会・評議員会・表彰式、特別講演Ⅰ、シンポジウムⅠ・Ⅱ、一般演題発表（口演、ポスター発表）、ランチョンセミナー、企業展示

10 月 27 日（土）リーガロイヤルホテル

特別講演Ⅱ、シンポジウムⅢ、倫理委員会企画講演、歯科衛生士シンポジウム、認定医・専門医教育講演、歯科衛生士教育講演、一般演題発表（口演）、臨床ポスター発表（認定医・専門医、歯科衛生士）、ランチョンセミナー、企業展示

上記プログラム内容には変更が生じる場合がありますので、プログラムの詳細は学術大会ホームページ <http://web.apollon.nta.co.jp/jspf61/>（日本歯周病学会ホームページ <http://www.perio.jp> からリンクしています）をご覧ください。

6. 参加登録費（事前参加登録および当日参加登録）

	事前参加登録	当日参加登録
正会員（歯科医師・医師ほか）	5,000 円	8,000 円
準会員（上記以外）	3,000 円	5,000 円
非会員（歯科医師・医師）	10,000 円	13,000 円
非会員（上記以外）	5,000 円	8,000 円
学生（歯学部・専門学校生）	当日登録のみ	1,000 円

事前参加登録期間

平成 30 年 6 月 4 日（月）正午より

平成 30 年 9 月 10 日（月）正午まで

7. 一般演題（口演・ポスター発表）、および国際セッション演題登録

学術大会ホームページよりご登録ください。

抄録作成については、ホームページ記載の執筆要項（5 月初旬に公開予定）をご確認ください。準備中に登録された抄録については削除されますので、登録期間以前にはアクセスしないようにお願いいたします。なお、郵送による演題登録は原則として受け付けておりません。諸事情のためオンライン登録が不可能な場合には、日本歯周病学会学術大会運営事務局（㈱日本旅行 西日本 MICE 営業部）までご連絡ください。

1) 演題発表資格

学術大会での発表は、1 名 1 演題までです。筆頭演者（発表者）と発表における責任者は本学会会員に限ります。筆頭演者と発表における責任者が同一の場合、筆頭演者のみ本学会会員であれば結構です。

2) 演題および抄録登録期間

平成 30 年 6 月 4 日（月）正午より

平成 30 年 6 月 29 日（金）正午まで（締切厳守）

登録期間終了日は、アクセス集中によるエントリー遅延、不具合が起りやすいため、早目に登録をお済

ませください（登録期間以降は、受付・オンライン修正・削除はできません）。

一般演題（口演・ポスター発表）の演題登録・発表方法に関する詳細は、学術大会ホームページで案内予定です。

演題登録時には登録サイトにて、留意事項を必ずご確認のうえ、ご応募くださいますようお願い申し上げます。留意事項を逸脱する行為、演題内容は発表をお断りすることがあります。

8. 一般演題の発表方法

口演発表の発表時間は、1 演題 8 分以内、質疑応答 2 分です。PC（Windows Microsoft PowerPoint 2007 以降）による発表とさせていただきます。アップル社製 PC（Mac）をご使用の場合は、ご自身で PC・アダプターをお持ちください。

ポスター発表のポスターのパネルサイズは、高さ 210 cm×幅 90 cm とします。

詳細は、学術大会ホームページをご参照ください。

なお、臨床研究の場合は所属機関の倫理委員会の承認、症例報告の場合には患者の同意、発表内容に関して利益相反に関する内容を明記してください。

第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会

準備委員長 田口洋一郎

（大阪歯科大学 歯周病学講座）

第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会運営事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-11-4

大阪駅前第 4 ビル 5 階

㈱日本旅行 西日本 MICE 営業部

TEL：06-6342-0212 FAX：06-6342-0214

E-mail：jspf61@nta.co.jp

学術大会 HP：http://web.apollon.nta.co.jp/jspf61/

第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター （認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は、一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくこととなりますが、受付は下記の学術大会ホームページのみからになりますのでご注意ください

さい。

http://web.apollon.nta.co.jp/jspf61/（学会ホームページ http://www.perio.jp から入れます）

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症

例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。
なおオンラインでの申し込みが不可能な方は、第61回秋季日本歯周病学会学術大会運営事務局（株日本旅行 西日本 MICE 営業部）までお問い合わせ下さい。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が学会認定資格（認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限りま。また、本学術大会における筆頭発表は1名1演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

平成 30 年 6 月 4 日（月）正午より

平成 30 年 6 月 29 日（金）正午まで（締切厳守）

※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起りやすいので、それ以前の早めの時期に登録をお済ませください。

演題申し込み時には登録サイトにて、留意事項を必ずご確認くださいようご案内申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については発表をお断りすることがあります。特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認、症例報告の場合は患者の同意を得ていることをポスターに明記する必要がありますので、ご注意ください。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資

格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ 210 cm×幅 90 cm といたします。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項は学術大会ホームページにてご確認ください。

演題番号の個所や顔写真の掲示場所、承認や同意の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。なお、演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし、なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいたすべての発表が選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外）。受賞発表および表彰は次回学術大会（第62回春季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長 高柴正悟

認定医委員会委員長 吉成伸夫

歯科衛生士関連委員会委員長 坂上竜資

認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 認定歯科衛生士申請（第27回認定歯科衛生士認定審査）および更新

平成 30（2018）年 6 月 4 日（月）：受付開始

平成 30（2018）年 6 月 22 日（金）：締め切り（消印有効）

平成 30（2018）年 7 月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

平成 30（2018）年 9 月頃：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

平成 30（2018）年 10 月 25 日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

平成 30（2018）年 10 月 26 日（金）：第 61 回秋季学

術大会（大阪）時に合格発表

平成 30（2018）年 12 月：認定歯科衛生士認定証発行

2. 専門医・指導医申請（第 59 回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新

平成 30（2018）年 6 月 25 日（月）：受付開始

平成 30（2018）年 7 月 13 日（金）：締め切り（消印有効）

平成 30（2018）年 7 月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

平成 30（2018）年 9 月頃：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催

平成 30（2018）年 10 月 25 日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認

平成 30（2018）年 10 月 26 日（金）：第 61 回秋季学術大会（大阪）時に合格発表

平成 30（2018）年 12 月：専門医・指導医認定証発行

3. 認定医申請（第 20 回認定医認定審査）および更新

平成 30（2018）年 7 月 16 日（月）：受付開始

平成 30（2018）年 8 月 3 日（金）：締め切り（消印有効）

平成 30（2018）年 8 月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

平成 30（2018）年 10 月 25 日（木）：（申請者のみ）筆記試験会場：リーガロイヤルホテル大阪

申請・更新合格者を理事会で承認

平成 30（2018）年 10 月 26 日（金）：第 61 回秋季学術大会（大阪）時に合格発表

平成 30（2018）年 12 月：認定医認定証発行

⇒平成 30（2018）年 1 月 1 日より、認定医申請の際に、本学会が行う倫理に関する講演の受講（1 回以上）が義務付けられます。

以上の各資格の申請・更新手続き、申請書類や規則等については、学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお、規則・細則は改訂されることがありますので、ホームページにおける申請受付前 1 カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医、専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は平成 30（2018）年 6 月 25 日（月）～7 月 13 日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては、学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。

認定医、専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会、指導医等主催による任意の研修会について、研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は平成 30（2018）年 6 月 25 日（月）～7 月 13 日（金）です。手続きの方法等を学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。平成 30（2018）年 8 月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

第 23 期理事長選挙中間報告

来る平成 30（2018）年 5 月 31 日に開催される、第 61 回春季日本歯周病学会学術大会時の理事会において、次期理事長選出の選挙を行います。

理事長選挙管理委員会より、事前に理事長有資格者の先生方に立候補の意思の確認をさせていただいたところ、下記の 4 名の先生が「理事長有資格者として理

事会の議を経て選挙管理委員会に推薦される事」に同意していただきました。なお、所信表明をご執筆いただいております。

同意者が 4 名にとどまったため、評議員選挙での上位 5 名を決定する必要がなくなり、選挙は 5 月 31 日の第 61 回春季日本歯周病学会学術大会時の理事会で

の1段階選挙となります。

しかし規定上の手続きにより、選挙の前に理事会において次期理事長有資格者4名を一括して選挙管理委員会に推薦いただく必要があります、持ち回り会議（郵送）によりご了承をいただきました。

結果といたしまして、理事50名中50名のご返答をいただき、その全員に理事会よりの推薦として同意いただきましたのでご報告いたします。

定款37条の3分の2以上を満たしておりますので理事会（持ち回り会議）として成立し、第38条による理事総数の過半数の同意も得られましたので正式に理事会承認とさせていただきます。

4名の「次期理事長有資格者」を選挙管理委員会よ

り「次期理事長候補者」として平成30（2018）年5月31日に開催される、第61回春季日本歯周病学会学術大会時の理事会において報告させていただき、当日直接選挙が行われます。

記

次期理事長候補者：小方頼昌、高柴正悟、坂上竜資、村上伸也（届出日順）

理事長選挙管理委員会
委員長 高橋慶壮

学術賞・研究助成・研修会等のご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1～2はホームページからの申請です。

申請期間：平成30（2018）年4月23日～6月15日
（共通）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2018（共通）

1. 第18回日本歯周病学会学術賞（2018年度）

本賞は、会員のうち歯周病学において継続して優れた業績を上げた研究者の功績を讃えることを目的に設けられました。副賞としてライオン株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞（学術賞盾）のほかに副賞20万円と盾（LION Award）が贈られます。応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_science/

2. シーズ育成若手奨励研究助成（2019年度）

本会では若手会員を対象とし、わが国における歯周病の研究・教育・医療および予防を推進することにつながるシーズ研究を奨励することを目的として、シーズ育成若手症例研究助成を制定しております。応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_seeds/

3. 企画調査研究助成（2018年度）

現在、研究委員会で検討中です。新たな方針が決まり次第、お知らせいたします。

4. 「若手研究者の集い」合宿研修会

秋季学術大会時に、宿泊をして行う合宿研修会は開催しません。学術大会初日に、懇親会を兼ねた「若手研究者の集い」研修会を開催します。

日本歯周病学会第4回中部地区臨床研修会開催報告

平成30年1月28日（日）に、第4回日本歯周病学会中部地区臨床研修会を三重県津市・三重県歯科医師会館にて開催いたしました。三重県歯科医師会との共催により、「早期からはじめる歯周治療と再生療法の有用性」をテーマとして、超高齢社会における歯周病とその治療に関する教育講演、再生療法を成功に導くためのポイントおよび、鼻副鼻腔の疾患とその治療に関する2つの特別講演、インプラント周囲疾患に関する歯科衛生士教育講演、また、リグロス®の練習用キットを用いた教育講習と多岐にわたるプログラムで行われました。多くの会員外参加者が集まった結果、参加

者総数は186名（歯科医師：134名、歯科衛生士：52名）となり、無事に挙行されたことをご報告させていただきます。

ご参加の皆様、三重県歯科医師会関係者の皆様、ご協賛いただいた企業各社様および関係各所に改めて御礼申し上げます。

平成30（2018）年度は、全国各地で計3回の臨床研修会開催を計画しておりますので、詳細は決定次第、ホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

各賞・助成選考結果

各賞・助成の概要につきましては、学会ホームページに掲載しております。対象者および受賞者の所属は、選考時のものです。

シーズ育成若手奨励研究助成（2018年度）

竹脇 学

（広島大学病院歯周診療科）
「キメラタンパク質を利用したサイトカイン内包間葉系幹細胞集塊の開発と歯周組織再生療法への応用」



第17回学術賞（2017年度）

讃井彰一

（九州大学大学院歯学研究院歯周病学分野）
「細胞骨格制御分子を標的とした新規歯周治療法の開発に関する基礎的研究」



企画調査研究助成（2018年度）

小林宏明

（東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科歯周病学分野）
「歯周歯内病変の病態および治癒成績に関する実態調査のための前研究」



久保田健彦

（新潟大学医歯学総合病院）
「歯周炎歯肉組織局所の細胞外マトリックス代謝調節遺伝子発現解析と全身疾患の関連解明」



第15回会誌賞（2016年度）

基礎分野 対象者なし

臨床分野 「顔貌形態による咬合力の推測」58（1）：33-40, 2016

中村太志, 守下昌輝, 村岡宏祐, 花谷智哉, 臼井通彦, 中島啓介
筆頭著者所属：九州歯科大学
歯学部口腔機能学講座歯周病学分野



優秀臨床ポスター賞（第60回春季学術大会）

最優秀賞ポスター賞

二宮雅美

（徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野）
「歯列不正を伴う重度薬物性歯肉増殖症患者に対して包括的歯周治療を行った一症例」



優秀賞ポスター賞

久保田義隆

（栃木・久保田歯科医院）
「広汎型重度慢性歯周炎患者に包括的治療を行った一症例」



ベストハイジニスト賞（第60回春季学術大会）

尾形美和

（北海道医療大学歯科クリニック歯科衛生部）
「多数の全身疾患を有する歯周病患者に非外科的歯周治療の著明な効果が認められた一症例」



2017年度功労賞

受賞賛助会員は以下のとおりです。

ストローマン・ジャパン株式会社
デンツプライシロナ株式会社

研究者育成ファンドによる奨学金助成対象者の報告

尾崎友輝（松本歯科大学歯科保存学講座）

助成期間：平成28年6月1日～平成29年3月31日

加齢に伴う歯槽骨喪失機序の解明

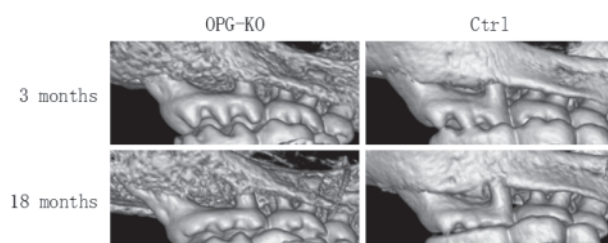
1. 目的

歯周病は、慢性炎症により歯槽骨吸収が引き起こされる。また、加齢は歯周病による歯槽骨の喪失を悪化させる要因の一つである。種々の炎症刺激は骨芽細胞の破骨細胞分化因子 RANKL の発現を誘導し、歯槽骨吸収を促進する。Osteoprotegerin (OPG) は RANKL のデコイ受容体で、RANKL シグナルを遮断し骨吸収を抑制する。OPG 遺伝子欠損マウス (OPG-KO) は、RANKL シグナルが亢進した歯周病モデルマウスである。われわれの研究グループは、RANK 様ペプチド

WP9QY (W9) が、OPG-KO の歯槽骨吸収を抑制するとともに骨形成を促進することを見いだした。本研究は、OPG-KO を用いて加齢による歯槽骨喪失の機序を解明することを目的とした。

2. 方法と結果

歯槽骨喪失の経時的解析：加齢に伴う歯槽骨の変化を検討するため、3, 12, 18 カ月齢の OPG-KO および C57BL/6J (Ctrl) の上顎歯槽骨の形態を、マイクロ CT 撮影により同一固体で経時的に解析した。3 カ月齢において、OPG-KO は WT に比較して歯槽骨表面の骨吸収が亢進し、粗糲化した。18 カ月齢において、OPG-KO はさらに骨吸収の亢進が観察された。一方で、Ctrl ではこのような変化は観察されなかった (図)。



3. まとめ

OPG-KO は加齢とともに重度の歯槽骨喪失を呈する歯周病モデルマウスであることが示された。今後、歯槽骨の骨形態計測や、骨形成および骨吸収マーカーの免疫組織化学的染色、血清中の骨形成および骨吸収マーカーの測定を行い、加齢による歯槽骨喪失の機序をさらに詳細に検討する。

山川真宏（広島大学大学院医歯薬保健学研究科歯周病態学研究室）

助成期間：平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

1. はじめに

歯周炎は *Porphyromonas gingivalis* (*Pg*) 感染を主とした慢性炎症性疾患であり、関節リウマチ (RA) との関連が報告されている。RA は滑膜の肥厚を特徴とした全身性の自己免疫疾患であり、その病因論には不明な点が多い。RA 診断において、抗環状シトルリン化ペプチド (CCP) 抗体の陽性化が重要なマーカーになっており、この抗体が認識するシトルリン化タンパク (CP) は、RA の自己抗原として内因性の Peptidylarginine deiminase (PADI) によって生成される。*Pg* は歯周病原細菌のなかでは唯一 PADI を有しており (*Pg*PAD), これによって CP が生成され、RA 増悪に関与するという報告がある。本研究では、*Pg* 感染が RA 発症にどのように関与しているか、マウスの実験系を確立して検討した。

2. 実験の概要

RA モデルとして、SKG マウスに laminarin (LA,

0.5 $\mu\text{g/g/mouse}$) を腹腔内投与したものを用いた。実験群を、①PBS のみ (PBS 群), ②LA のみ (LA 群), ③ *Pg* (107 CFU/mouse, 腹腔内接種) と LA (*Pg*+LA 群), ④ *Pg* のみ (*Pg* 群) の 4 群に分けて 42 日後に解析した。関節腫脹の評価は、Arthritis score (AS) を用いた。骨破壊の程度は、関節組織を採取し、microCT で評価した。また、*Pg* および CCP に対する血清抗体価と、血清中の MMP-3 の産生量を ELISA 法で解析した。血清中のサイトカイン産生は Bio-Plex Mouse Cytokine 23-plex assay kit を用いて網羅的に解析した。次に、各群のマウス大腿骨から単球系の細胞 (BMCs) を分離し、M-CSF (20 ng/ml) および sRANK (50 ng/ml) 存在下で 7 日間培養し、破骨細胞への分化を比較した。培養 72 時間後に total RNA を抽出し、破骨細胞分化関連分子の発現レベルを real time PCR 法で解析した。また、足首関節組織を HE 染色し、各群を比較した。さらに各群のマウス関節から軟組織を採取して、Western blotting 法 (WB) で検討した。

3. 結果

AS は③ *Pg*+LA 群において、②LA 群および① PBS 群と比較して有意に上昇を認めた。micro CT 解析では、③ *Pg*+LA 群で関節の骨の明らかな破壊がみられた。*Pg* に対する血清抗体価は、③ *Pg*+LA 群および④ *Pg* 群が、ほかの群と比較して有意に上昇した。CCP に対する血清抗体価および血清中の炎症性サイトカイン産生量は、③ *Pg*+LA 群がほかの群と比較して有意に上昇した。また、③ *Pg*+LA 群由来の BMCs は、破骨細胞への有意な分化促進を認めた。破骨細胞分化にかかわる分子の mRNA 発現は、③ *Pg*+LA 群が有意に上昇した。HE 染色では、③ *Pg*+LA 群で多数の炎症性細胞浸潤と骨破壊が観察された。WB では、③ *Pg*+LA 群および④ *Pg* 群において、関節局所における *Pg* 由来タンパクおよび CP 産生の明らかな増加を認めた。以上の結果から、*Pg* 感染が CP 増加と CCP 上昇を介して、RA の増悪に関与することが示唆された。

第104回アメリカ歯周病学会共催日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会 2018年大会のご案内

第104回アメリカ歯周病学会共催日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会2018年大会（AAP-JACP/JSPバンクーバー大会）が、下記のとおり開催されます。

開催日：2018年10月27～30日

会場：Vancouver Convention Centre, Vancouver, Canada

日本からも多くの先生方が演者として採択されています。

参加登録は、JACP/JSP会員専用登録サイトで行ってください。詳しい登録方法は、日本歯周病学会ホームページ（<http://www.perio.jp/> AAP-JACP/JSP大会バナー）でご案内いたします。順次更新される最新情報にご注目ください。JACP/JSPポスターセッションも開催され、優秀な発表に表彰（JACP/JSPポスター賞）が行われます。

ポスターカテゴリー：General（basic research, clinical research）, Case Report, Dental Hygiene（歯科衛生士の症例報告および臨床研究）

皆様お問い合わせのうえ、ご参加いただきますようお願いいたします。

理事長 栗原英見
国際交流委員長 古市保志

第4回「若手研究者の集い」合宿研修会開催報告

平成29年12月16～17日、日本歯周病学会60周年記念京都大会において、学会あり方委員会主催による第4回「若手研究者の集い」合宿研修会が、学会場である京都国際会館からバスで20分ほど、平安神宮の北に位置する「史跡旧仮皇居聖護院御殿荘光淳」にて開催されました。

この合宿研修会は、若手研究者間の交流促進とリサーチマインドの活性化を目的として、秋の学会時に開催されるものです。昨年度、旅館（温泉）の相部屋での宿泊が好評だったため、今年度も旅館で行うことになりました。例年と違い学会初日での開催であったため、参加者が集まるかどうか心配でしたが、幸い33名の若手研究者の方に参加していただきました。

初日の講演終了後にバスで現地に向かい、おのこの部屋で一休みした後、夜19時30分から大広間で講演を聴きながらの懇親会が始まりました。60周年記念大会という特別な大会であることなど諸事情により、今回特別講演はありませんでしたが、新藤 智先生（広島大学）、多部田康一先生（新潟大学）、白方良典先生（鹿児島大学）の3名の先生方から留学経験についてご紹介いただきました。新藤先生は第1回合宿研修会



の参加者でもあり、そのとき特別講演をされた Forsyth 研究所 河井敬久先生の研究室へ留学することになった経緯を含め、アメリカでの留学生活についてお話しいただきました。多田先生はちょうど2度目の留学から帰国されたばかりで、1回目と2回目の違いなども含め、ホットな情報をお話ししていただきました。白方先生はスイスでの留学生活について、留学のきっかけ・留学先の選択などを交えて丁寧にお話ししていただきました。参加者にとって3名の先生方の貴重な体験談は、今後の進路や研究生活を考えるうえで大いに参考になったと思います。

懇親会の後は同じ大広間で引き続き二次会が開催されました。旅館の支配人から幻の銘酒(!)「光淳」の差し入れもありお酒が進むなか、学会のあり方委員会委員長 山本先生はじめワーキングメンバーの先生とともに、留学・研究など多岐にわたる話題について話が弾んでいました。2日目朝8時30分の講演に間に合うよう早起きする必要もあり、23時頃にお開きとしましたが、まだまだ話したりない先生方は広間に残ったり、各部屋で遅くまで話し込んでいたようです。今回も違う大学出身者同士の相部屋でしたが、アンケートでもおおむね好評で、新たな出会いはお互いに良い刺激になったのではないのでしょうか？

今回の宿泊施設は皇室と関係の深い聖護院門跡の一郭が宿泊施設として開放されたもので、境内には重要文化財があるなど京都らしい歴史を感じさせるすばらしい宿でした(残念ながら温泉はなし! 贅沢は言えません)。近くには平安神宮、また東へ行くと哲学の道が



あり観光にも絶好の場所でした。学会初日での開催でしたので、この由緒ある施設をゆっくり楽しむ時間はありませんでしたが、短い滞在時間でも京都らしい雰囲気を感じたのではないのでしょうか。せっかくの京都、しかも観光にもってこいの場所ということもあり、事前に出発時に点呼は取らないので自由にどうぞ、と伝えましたが、60周年記念大会の錚々たる先生方の講演を聴き逃すまいと全員バスに乗って学会場に戻り、盛況のうち、無事合宿研修会を終えました。

アンケートではおおむね好評でしたが、いただいたご意見を参考にさらに充実した会にしていければと思います。

最後に、本研修会の企画・開催にあたりまして、学会のあり方委員会委員長の山本先生、講演者の先生方、ワーキンググループの先生方に感謝を申し上げます。

第4回「若手研究者の集い」合宿研修会

ワーキンググループ 幹事 昭和大学 須田玲子

日本歯周病学会会誌のご案内

前回の Newsletter 以降、刊行されました日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は2015年よりオンライン化され、J-STAGE で閲覧できます。また、発刊に合わせてメールアラートを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/perio/-char/ja>

日本歯周病学会会誌 Vol. 59 (2017) No. 4

ミニレビュー

「歯周病における組織破壊に関する免疫学的考察」

菊池 毅, 岡部猪一郎, 岡田康佑, 大野 祐, 後藤久嗣, 藤村岳樹, 菱川敏光, 山本弦太, 福田光男, 三谷章雄

トピック紹介

「抗菌薬併用フルマウス SRP の薬物性 QT 延長に関するパイロット研究」

長野孝俊, 五味一博

「外科的歯冠延長術——一般歯科医からの依頼に応え

る一」

岡安こずえ, 大澤銀子, 仲谷 寛

症例報告レビュー

「外傷性咬合により骨内欠損を生じた上顎前歯部に対して歯周組織再生療法を行った症例」

有田博一, 玉野美樹

症例報告

「広汎型重度慢性歯周炎患者へ固定性補綴治療を行った21年経過症例」

永井省二

「尋常性天疱瘡による剥離性歯肉病変の一症例」

堂満愛弓, 中村利明, 下田平貴子, 橋口千琴, 野口和行

役員名簿

日本歯周病学会役員 (平成29年4月1日～平成31年3月31日)

理事長 栗原英見

常任理事 梅田 誠 小方頼昌 齋藤 淳 坂上竜資 佐藤 聡 高柴正悟 高橋慶壮
西村英紀 沼部幸博 野口和行 東 克章 古市保志 三谷章雄 三辺正人

森田 学 山崎和久 山本松男 吉成伸夫

監事 安孫子宜光 新井 高

庶務担当 五味一博 (幹事 長野孝俊) 会計担当 村上伸也 (幹事 藤田 剛)

名誉会員 岩本義史 末田 武 岡本 莫 中村恭政 雨宮 璋 見明 清 川崎 仁
中村治郎 堀内 博 二階宏昌 岡田 宏 加藤 熙 上野和之 村山洋二
滝口 久 斎藤和子 栢 豪洋 村井正大 齋藤 滋 鴨井久一 石川 烈
太田紀雄 亀山洋一郎 岡本 浩 矢嶋俊彦 渡邊達夫 宮下 元 奥田克爾
山田 了 角田正健 新井 高 上田雅俊 横田 誠 零石 聰 伊集院直邦
下野正基 川瀬俊夫 Alice DeForest Pierre C. Baehni 安孫子宜光 伊藤公一
前田勝正 Martin A. Taubman 野口俊英 出口真二 大塚吉兵衛 宮田 隆
伊東隆利 野村慶雄 谷口威夫 Robert Genco 川浪雅光 田中昭男
船越栄次 Gregory J. Seymour Thomas E. Van Dyke

評議員 □理事長 ●副理事長 ◎常任理事 ○理事

北海道大学大学院歯学研究科 林 丈一朗(歯周病学, 准)

菅谷 勉(歯周・歯内, 准) ○荒木久生(オーラルリハビリテーション学, 教)

田中佐織(大学病院, 講) 東京医科歯科大学

北海道医療大学歯学部 渡辺 久(歯周病学, 准)

◎◎古市保志(歯周・歯内, 教) 青木 章(歯周病学, 講)

加藤幸紀(歯周・歯内, 講) 竹内康雄(歯周病学, 講)

長澤敏行(臨床教育管理運営, 教) ○木下淳博(教育メディア開発学, 教)

森 真理(大学病院, 講) 荒川 真一(生涯口腔保健衛生学, 教)

岩手医科大学歯学部 小田 茂(総合診療部, 准)

○八重柏隆(歯周療法学, 教) 新田 浩(附属病院, 准)

村井 治(歯周療法学, 助教) 東京歯科大学

東北大学大学院歯学研究科 ◎◎齋藤 淳(歯周病学, 教)

○山田 聡(歯内・歯周, 教) 富田幸代(歯周病学, 准)

根本英二(歯内・歯周, 准) ○石原和幸(微生物学, 教)

奥羽大学歯学部 伊藤太一(口腔インプラント学, 准)

◎◎高橋慶壮(歯周病学, 教) 日本歯科大学生命歯学部

大島光宏(薬学部, 教) ◎◎沼部幸博(歯周病, 教)

新潟大学大学院医歯学総合研究科 伊藤 弘(歯周病, 准)

奥田 一博(歯周診断・再建学, 准) 関野 愉(歯周病, 准)

久保田健彦(歯周診断・再建学, 講) ○仲谷 寛(総合診療, 教)

◎◎山崎和久(口腔生命福祉学, 教) 川村浩樹(総合診療, 准)

川瀬知之(移植・再生学, 准) 大澤銀子(総合診療, 准)

小林哲夫(総合病院, 准) 日本歯科大学新潟生命歯学部

杉田典子(総合病院, 講) ◎◎佐藤 聡(歯周病, 教)

多田康一(総合病院, 講) 両角祐子(歯周病, 准)

両角俊哉(総合病院, 講) 阿部祐三(総合診療科, 准)

明海大学歯学部 大森みさき(総合診療科, 准)

○申 基喆(歯周病学, 教) 高塩智子(総合診療科, 講)

辰巳順一(歯周病学, 准) 坂井由紀(附属病院, 衛)

日本大学歯学部

○佐藤秀一(歯周病, 教)

菅野直之(歯周病, 准)

吉沼直人(歯周病, 准)

西田哲也(歯周病, 講)

今井健一(細菌・教)

日本大学松戸歯学部

◎◎小方頼昌(歯周治療, 教)

高井英樹(歯周治療, 講)

中山洋平(歯周治療, 講)

落合智子(口腔免疫, 教)

中村悦子(歯科衛生専門学校, 衛)

昭和大学歯学部

◎◎山本松男(歯周病, 教)

須田玲子(歯周病, 准)

滝口 尚(歯周病, 講)

神奈川歯科大学

◎◎三辺正人(歯周病, 教)

青山典生(歯周病, 准)

菅谷 彰(歯学教育, 教)

○児玉利朗(横浜クリニック, 教)

田村利之(歯周病, 教)

鎌田要平(横浜クリニック, 講)

根本千聖(附属病院, 衛)

鶴見大学歯学部

◎◎五味一博(歯周病学, 教)

長野孝俊(歯周病学, 准)

白川 哲(歯周病学, 講)

○渡辺孝章(短期大学部, 教)

小林一行(短期大学部, 准)
吉川景子(附属病院, 衛)
松本歯科大学

◎○吉成伸夫(保存(歯周), 教)
○石原裕一(保存(歯内), 教)
宇田川信之(口腔生化学, 教)
音琴淳一(健康増進口腔科学, 教)
國松和司(特任教)
田口明(歯科放射線学, 教)
西窪結香(大学病院, 衛)

朝日歯学部

○渋谷俊昭(歯周病, 教)
北後光信(歯周病, 准)
合田征司(歯周病, 講)
安田忠司(歯周病, 講)
荒木美穂(歯科衛生士専門学校, 衛)

愛知学院歯学部

◎○三谷章雄(歯周病学, 教)
菊池毅(歯周病学, 准)
林潤一郎(歯周病学, 講)
菱川敏光(歯周病学, 講)
○福田光男(特殊診療科, 教)
稲垣幸司(短期大学部, 教)

大阪歯科大学

◎○梅田誠(歯周病学, 教)
田口洋一郎(歯周病学, 准)
大浦清(薬理学, 教)

大阪大学大学院歯学研究科

◎○村上伸也(口腔治療, 教)

北村正博(口腔治療, 准)
○恵比須繁之(歯科保存, 教)
徳島大学歯学部

木戸淳一(歯周歯内, 准)
成石浩司(歯周病科, 講)
○尾崎和美(口腔保健支援学, 教)
伊藤博夫(予防歯学, 教)

広島大学歯学部

□○栗原英見(歯周病態学, 教)
藤田剛(歯周病態学, 准)
水野智仁(歯周病態学, 講)
河口浩之(附属病院, 教)

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

◎○高柴正悟(歯周病態学, 教)
◎○森田学(予防歯科学, 教)
山本直史(大学病院, 講)
大森一弘(大学病院, 講)

九州歯科大学

○中島啓介(歯周病, 教)
白井通彦(歯周病, 准)
久保田浩三(連携教育ユニット, 教)
村岡宏祐(クリニカルレクチャリング施設, 講)
溝部潤子(口腔機能支援, 衛)
高橋由希子(連携教育ユニット, 衛)

九州大学大学院歯学研究科

◎○西村英紀(歯周病学, 教)
讃井彰一(大学病院, 講)

福岡歯科大学

◎○坂上竜資(歯周病, 教)

吉永泰周(歯周病, 准)
永井淳(地域連携センター, 教)
金子高士(口腔医療センター, 教)
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

◎○野口和行(歯周病学, 教)
白方良典(歯周病学, 准)
中村利明(大学病院, 講)

長崎大学歯学部

吉村篤利(歯周病学, 准)
鶴飼孝(歯周病学, 講)

慶應義塾大学

○中川種昭(歯科・口腔外科, 教)

神戸常盤大学短期大学部

柳田学(口腔保健学科, 教)

静岡県立大学短期大学部

吉田直樹(歯科衛生学科, 准)

東京歯科大学短期大学

杉戸博記(歯科衛生学科, 教)

東京女子医科大学

岩田隆紀(先端生命, 講)

日本医科大学

鴨井久博(歯科, 教)

日本歯科大学東京短期大学

野村正子(歯科衛生科, 衛)

九州看護福祉大学

金子憲章(口腔保健学科, 教)

一般関係(五十音順)

青木護(埼玉県)
赤堀康(愛知県)
新井英雄(岡山県)
○有田博一(東京都)
飯野文彦(東京都)
○池田雅彦(北海道)
池田康男(静岡県)
池田頼宣(東京都)
石谷昇司(東京都)
市丸英二(佐賀県)
市村光(埼玉県)
伊藤正満(愛知県)
岩本義博(香川県)
内川宗敏(長野県)
内田剛也(神奈川県)
梅村昌孝(愛知県)
江澤庸博(東京都)
遠藤憲行(岩手県)
大石慶二(香川県)
大石美佳(香川県)
大江丙午(岡山県)
○大野友三(愛知県)
岡部京平(京都府)
長田豊(長崎県)
鬼塚得也(福岡県)
片山明彦(東京都)
加藤義弘(北海道)
金指幹元(神奈川県)

○金子至(長野県)
鎌田征之(東京都)
亀井英彦(栃木県)
河原傳(愛知県)
蒲沢文克(北海道)
菊池重成(東京都)
北村秀和(東京都)
○木村英隆(福岡県)
熊谷敦史(岩手県)
黒柳隆穂(愛知県)
郷家英二(東京都)
河野寛二(奈良県)
小島丈尚(東京都)
後藤邦之(愛知県)
小林宏明(東京都)
小林博(東京都)
○佐瀬聡良(千葉県)
真岡淳之(滋賀県)
澤田弘一(岡山県)
汐見登(静岡県)
篠原啓之(徳島県)
洪川義宏(北海道)
島袋善夫(大阪府)
清水宏康(東京都)
白木雅文(岐阜県)
杉田裕一(茨城県)
杉山貴志(神奈川県)
鈴木康司(東京都)

鈴木真名(東京都)
鈴木基之(東京都)
関野仁(東京都)
瀬戸口尚志(鹿児島県)
田井秀明(新潟県)
高島昭博(福岡県)
高橋潤一(東京都)
滝川雅之(岡山県)
竹内泰子(東京都)
田中繁寿(岐阜県)
田中真喜(神奈川県)
谷真彦(長崎県)
谷芳子(長崎県)
谷口崇拓(長野県)
玉澤かほる(宮城県)
佃宣和(北海道)
土岡弘明(千葉県)
土井伸浩(広島県)
富井信之(新潟県)
中島貴子(新潟県)
長縄敬弘(愛知県)
二階堂雅彦(東京都)
西原廸彦(福岡県)
長谷川嘉昭(東京都)
濱地貴文(福岡県)
◎○東克章(熊本県)
平野治朗(神奈川県)
平野裕之(京都府)

○廣瀬哲之(神奈川県)
藤井健男(北海道)
藤川謙次(東京都)
藤本淳(岩手県)
保坂均(群馬県)
穂坂康朗(東京都)
本郷興人(北海道)
町頭三保(鹿児島県)
松下健二(愛知県)
松原成年(岐阜県)
松山孝司(鹿児島県)
水上哲也(福岡県)
峯柴淳二(岡山県)
宮尾益佳(新潟県)
村上恵子(東京都)
村田雅史(新潟県)
村橋慶宣(大阪府)
茂木信道(神奈川県)
茂木美保(東京都)
安井聡志(長野県)
梁川輝行(岩手県)
吉永英司(東京都)
吉野敏明(神奈川県)
○若林健史(東京都)
渡辺和志(埼玉県)

賛助会員

医歯薬出版(株)
(株)エイ・アイ・シー
エビス(株)
(株)エフ・アール・エス
(有)エルバ
長田電機工業(株)
(株)ガイドデント
花王(株)
科研製薬(株)
クインテッセンス出版(株)
グラクソ・スミスクライン(株)
合同酒精(株)
小林製薬(株)
佐藤製薬(株)
サンスター(株)

サンデントタル(株)
三宝製薬(株)
(株)ジーシー
(株)松風
昭和薬品化工(株)
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
ストローマン・ジャパン(株)
タカラベルモント(株)
デントタルプロ(株)
デントプライシロナ(株)
(株)トクヤマ
(株)ニッシン
日本歯科薬品(株)
ジンマー・バイオメット・デントタル(株)
白水貿易(株)

(株)白鵬
ヒューフレディ・ジャパン(同)
(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン
プランネットワークス(株)
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株)
三井住友トラストクラブ(株)
(株)モリタ
(株)ヨシダ
ライオン(株)
ライオン歯科材(株)
(株)ワイディエム
わかもと製薬(株)

(五十音順)

日本歯科医学学会役員（平成 29 年 7 月 1 日～平成 31 年 6 月 30 日）

理 事 栗原 英 見
評 議 員 小方 頼 昌 山崎 和 久 山本 松 男
予備評議員 五味 一 博 沼部 幸 博 三 辺 正 人

【お願い】 名称の変更・所属評議員の異動等ありましたら、すみやかに事務局までご連絡ください。

編集後記

平昌オリンピック・パラリンピックが閉幕しました。大会前にはマスコミが国際政治に翻弄された競技会の色合いを強調し、観る側もそれに洗脳されていた感がありました。ところが、いざ開催されたら、ややこしい話はそっちのけ。純粋に競技を楽しめました。アスリートの鍛え抜かれた技に感激し、そこに至るまでの努力を称賛するかぎりにおいては、「平和の祭典」はあながち嘘ではないと思います。具体的な目標を設定し、決められたルールを守り、意外性や創造性に裏打ちされた自己実現を完成させる。それには国も人種も関係なし。科学もそれによく似ているのかもしれませんが。科学を純粋に楽しみたいものです。

さて、昨年の京都大会、広報委員会が最も気をもんでいたのが、「自動参加受付システムのトラブル続出」という悪夢でした。幸い、私の知るかぎりでは大きなトラブルがなかったと感じております。とはいえ、このシステムは開始したばかりです。今後、想定外の何かが起こるでしょう。また記念大会ということで、気合を入れて対処したことが良かったのかもしれませんが。ピギナーズブラックといわれないう、次大会・次々大会と改良を重ねてまいります。どのような細かいことでも結構ですので、会員カードや受付システムの改良すべき点を教えてください。かくいう私自身、当日会員カードを忘れて参加しました。反省することしきりです。

最後になってしまいましたが、2018 年第 1 号のニュースレターをお届けします。私の場合、盛大に開催された京都大会の余韻がまだ残っております。しかし、このニュースレターは、いつまでも過去を振り返ってはいけないうことを否応なしに教えてくれます。そう、学会活動は休みなく進んでいます。古市保志先生の巻頭言の冒頭をご覧ください。JSP の国際交流用ロゴマークができました。ご存じない方は学会 HP でマークを確認してください。秋の学術大会（大会長 梅田 誠先生）のテーマは「高齢者の健康寿命」がキーワードです。その他、認定関連、理事長選挙、学術賞、研究助成、研修会等々、内容は盛り沢山です。お見逃しなきようお願いします。

（広報委員会副委員長 森田 学）